



平成 19 年 9 月 4 日

各 位

会 社 名 エ ス フ ー ズ 株 式 会 社  
代 表 者 取 締 役 社 長 村 上 真 之 助  
(コード番号 2292 東証・大証第一部)  
問 合 せ 先 専 務 取 締 役  
経 営 管 理 本 部 長  
富 沢 進  
(TEL . 0798 - 43 - 1065)

当社子会社（株式会社オーエムツーネットワーク）の業績予想の修正に関するお知らせ

本日、当社子会社である株式会社オーエムツーネットワーク（コード番号 7614、JASDAQ）は、別添のとおり平成 19 年 3 月 26 日に公表した平成 20 年 1 月期（平成 19 年 2 月 1 日～平成 20 年 1 月 31 日）の業績予想を修正しましたのでお知らせいたします。

なお、これに伴う当社の平成 20 年 2 月期の連結業績予想の修正は予定しておりません。

以上



平成 19 年 9 月 4 日

各 位

会 社 名 株式会社オーエムツーネットワーク  
代 表 者 名 代表取締役社長 大 越 勤  
( JASDAQ・コード 7614 )  
問 合 せ 先 常務取締役社長室長 玉 置 雄 三  
電 話 03 - 5405 - 9541

平成 20 年 1 月期中間連結業績予想および  
通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 20 年 1 月期(平成 19 年 2 月 1 日～平成 20 年 1 月 31 日)の業績予想について、平成 19 年 3 月 26 日付「平成 20 年 1 月期中間連結業績予想および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 20 年 1 月期連結業績予想の修正等

(1) 中間期(平成 19 年 2 月 1 日～平成 19 年 7 月 31 日)

(単位 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	17,220		570	220
今回修正(B)	16,150	230	332	113
増減額(B - A)	1,070		238	107
増減率(%)	6.2		41.8	48.6
(参考)前年同期実績 (平成 19 年 1 月期中間期)	16,307	475	529	232

前年同期は平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日の 6 ヶ月間であります。)

(2) 通期(平成 19 年 2 月 1 日～平成 20 年 1 月 31 日)

(単位 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	36,700		1,400	580
今回修正(B)	34,900	730	900	210
増減額(B - A)	1,800		500	370
増減率(%)	4.9		35.7	63.8
(参考)前期実績 (平成 19 年 1 月期)	27,253	986	1,061	425

(平成 19 年 1 月期は決算期変更により平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 1 月 31 日の 10 ヶ月間変則決算になっております。)

### (3) 修正理由

中間期については競争の激化から主力事業である食肉小売の既存店売上高が伸び悩んだ上、新店が未だ販促時期にあり収益面で寄与がなかったこと、更に鶏、豚の仕入れ価格の高騰を販売価格に転嫁できなかったことなどが影響しました。またスーパーマーケット事業の業績も当初予想を下回ったことから、平成 20 年 1 月期中間連結業績の売上高は 16,150 百万円(前回比 6.2%減)、経常利益は 332 百万円(同 41.8%減)、中間純利益は 113 百万円(同 48.6%減)の予想となりました。

通期については競争環境は引き続き厳しいと予想されるものの、秋口以降、牛肉においては米国からの輸入が漸増すると思われること、鶏、豚についても需給環境の好転が見込まれることから収益的には次第に回復してくるものと予想しております。

下期は本年 3 月に買収した(株)焼肉の牛太が売上高に関しフル寄与してくることもあり、上記の前提の下で平成 20 年 1 月期連結業績の売上高は 34,900 百万円(前回比 4.9%減)、経常利益は 900 百万円(同 35.7%減)、当期純利益は 210 百万円(同 63.8%減)の予想となりました。なお、当期純利益の減益率が大きいのは、具体的には未確定ながら不採算店舗の減損・撤退損を見込んでいることなどによるものです。

上記の業績予想の数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値とは異なる場合があります。

以上